

実践研究会を開催!

令和6年2月18日(日)第15回実践研究会を北方町コミュニティセンター会議室で行いました。真正中の土曜参観があり、当初の予定日を変更したため、欠席された方も出てしまいましたが、「**道徳教育を充実させるために!**」のテーマで、何とか開催出来ました。今回は、北方町を代表し町立こども園・吉村雅子園長、本巣市を代表し真正中学校・佐伯康輔教諭に発表していただきました。北方町の保育園から広瀬照美先生、小寺真由美先生、伊藤佳江先生、根尾幼児園から清水康孝先生が参加してくださいました。総勢12名でしたが、充実した内容の実践研究会となりました。10時、**大野琴美**会計による「梅花を愛でる」言葉からの開会となりました。



まずは、**森山政紀**会長の挨拶です。

「会報24号を用意しました。第8回実践研究会の報告号ですが、この時司会をしてくださった國枝孝治先生がお亡くなりになりました。お世話になりましたことに感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。次に、お二人の発表者、ご参会者に厚く感謝申し上げます。私は公益財団法人モラロジー道徳教育財団で『道徳で人と社会を幸せに』する生き方を学んでおります。品性向上に大切なことを尋ねました。(中略)何を大切に心がけるか…『人生すべてプラス思考で』生きたいです。『10年偉大なり、20年畏るべし、30年歴史となる』中国の諺があります。20回を迎えられるように何とか頑張っていきたいと思っております」
続いて、参加者全員の自己紹介が和やかに進められました。



幸せな人生と幼児教育の在り方

発表者:北方町立こども園 吉村 雅子 園長

「まず『北方学園構想』について話します。主体的で『たくましい北方の子』をめざして北方町では幼保小中一貫教育で、15年間の教育プログラムを作成し取り組んでいます。『幼児教育を担うこども園は生きていくための丈夫な**根っこ**』となります。『心身ともに健康で たくましい子の育成』を教育目標



に、難しいことに出合っても、気持ちを切り替え、友達と力を合わせ、最後までやりきる体験を積み重ねる所です。『遊んでいる』と思われる園児ですが、自ら学ぼうとしているのです。それぞれの発達課題に挑戦していると理解して、園児が望む環境を整えるのが最大の役割と考え、日々勤めております。(略)9・10月の『リレー遊び』を例にしますと、仲間づくりから話合い、試走を重ね、その結果から分かったことをもとにチームで工夫を重ねます。先生方は、自立心・協同性・思考力が育つように、話合いの整理を助けたり、励ましたりします。質の高い幼児教育が幸せな人生を送る礎となることを願い、今後も環境づくりに努力を重ねて参ります」



⇒**清水園長**「職員指導として心がけていることを教えてくださいませんか。なりたての身で、参考にしたいです」

吉村園長「実践は全て職員の努力によるものです。園児のためにと頑張ってくれたことを価値付けて、より意欲的になれるように、話したり記録したり…を毎日続けています」

「多様な自己」を理解する生徒の育成 ～他者を生かして内面を追求する道徳科の在り方～

発表者：本巢市立真正中学校 佐伯 康輔 教諭

「発表の場をいただき有り難うございます。

今の私は中学校3年の担任として、生徒が夢や目標をもって巣立っていくのを応援する立場です。生徒が、この1年道徳科で成長した姿を紹介したいと思います。

夢や目標、幸せを自己実現するには他者と『共生』しようとする資質が欠かせません。他者の多様な価値観をどう受け止めるため、自己理解をどう広げていけるか…、自己の至らなさも含め道徳科では追求することができます。『多様な自己』を自覚することが、多様な他者と共生するための資質につながります。今回紹介する実践は、『二通の手紙』と『本とペンで世界を変えよう』です。



実践事例1 11月
『二通の手紙』（日本文教出版）
内容項目：C（10）遵法精神・公德心
勤勉さと真面目さを買われ、定年後に臨時で動物園の入園係として雇われた元さんが登場する。ある日、入園時間を過ぎた頃に入園料を振り締めた姉弟が現れ、規則違反と知りながらも、元さんは2人を入園させる。その行為が問題となった元さんに、姉弟の母親からの手紙と、懲戒処分の通告が届く。

と弟を入園させた元さんには、後日『母親からの手紙』と『懲戒処分の通告』が届くのでした。まずは『規則破りを知りながら、何故入園させたのか…』を発問。『母親が働いて毎日来る』『姉の誕生日』等を確認。条件を変えて考えるため『奥さんが生きていた頃は規則厳守だったのが、亡くなった今は…』を問い返す。『寂しさから他者の思いがよく分かる』元さんへの理解。立場を変えて考える『二通の手紙』から初めて気付かされたこと』を共有ノートで考えを表明させる。

『人の気持ちを尊重するのもその人のために良いことだけど、規則やルールを守ることがより必要だと思う』『規則が大切というのは自分

も考えたけど、事故が起きたら帰ってこない可能性もあったし、規則を破って誰かを幸せにするのは危険だというのは本当にその通りで、共感出来ました』と考える授業になりました。自己と他者の協働的な学びになったと思います。（以下略）

⇒清水園長「一緒にいた時と変わらずに、道徳で頑張ってくれていることが嬉しいです。これからも期待しております」



北川理事「真剣に考え議論する道徳科の授業実践をし、それを確実に積み重ねていることが何より尊い。だからこそ生まれる心の叫びともいえる発言であり、それを受け止めることが出来る仲間関係であると、改めて感じました」

森山政紀会長から指導助言を申し上げました。

「林明夫顧問のように巧くは出来ませんので、お二人の先生方に感謝を申し上げたいと思います。共通して感じましたのは真摯な『洞察力』です。幼児や職員、生徒に対して、良き未来に導こうとの愛情があるので信頼を得ていることが分かります。真正中・佐伯先生の発表では、生徒の発する発言を分析して価値付ける指導が感動的です。『葛藤』のある教材での追求は生徒自身の本質を他者と知る様子が伝わります。



『遵法精神』として、30人31脚の大会に出たいという児童の熱意と安全管理のためを考える立場で選択を迫られた自分の経験を思い出しました。難しい判断ですが『児童の熱意を叶えるために監督をやる』決断は、自分らしさ・生き方なのだと思得した次第であります。参加の皆様を代表してお二人の先生の益々のご活躍を期待しております」

清水季代副会長より結びの挨拶がありました。



「今日の実践研究会は、幼児から中3迄15年間の教育の成果を学ぶことが出来ました。実践の内容を持ち帰り学校での指導に役立てようと思います。発表者・参加者の皆様へお礼申し上げます」と締めくくられました。

関係各位のご支援・ご尽力に対しまして、厚く御礼申し上げます。